

概要

研究分野として掲げているテクノロジーの哲学、イノベーションマネジメント、プロトタイピングに関する研究、およびそこで得られた知見を活かした活動を学内外で行った。学内では、岐阜県内の企業などにおけるイノベーション活動を支援する事業「岐阜イノベーション工房」のほか、メディア表現学研究会第1期の運営担当、入学試験委員会の委員長をつとめた。学外では、Art for Well-beingの全体監修、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 非常勤講師、株式会社マクアケ 外部有識者会議 有識者メンバーなどをつとめた。

学内の活動

岐阜イノベーション工房

岐阜イノベーション工房は、岐阜県内の企業などにおけるイノベーション活動を支援する事業。参加者が、イノベーション創出に有効であるとされる手法を主催者から学び、参加者の所属組織などにおいて実践し、実践からの学びを共有することを通じて、イノベーション活動に積極的に取り組む風土を岐阜県内に醸成することを目的として2018年度より開催している。昨年度に参加した6社13名が4チームを含め、合計で企業26社23チームが参加している。それらのうち、本事業への参加をきっかけとして2社がプロダクト(製品・サービス)のイノベーションを実現できたのにくわえて、1社がプロセスのイノベーションを実現できたことが確認できている。

<https://sites.google.com/iamas.ac.jp/gifu-innovation-workshop/>

メディア表現学研究会

メディア表現学研究会は、本学における多様な研究と制作が直面している話題の中で、今後の社会を考える上で重要な兆候になると思われるものを学外に開き、参加者との議論を経てメディア表現学を集合的に定義していくことを目的とした連続研究会。2023年には4回の研究会と1回の特別講義が開催され、そのうち2回の企画・運営を担当した。

- ・ 第4回(2023年1月28日):「時間論からメディアアートの再起動を考える:哲学・人工知能・アート」(ゲスト:平井靖史さん、三宅陽一郎さん)
- ・ 第7回(2023年11月20日):「サイバネティック・パラダイムをめぐる議論からメディアアートの再起動を考える」(ゲスト:原島大輔さん)

<https://sites.google.com/iamas.ac.jp/sg-for-media-creation-studies/>

入学試験委員会(委員長)

今年度は、よりよい入学試験制度として運用できるよう漸進的な改善を重ねるのにくわえて、本学の研究活動を周知するためのイベント開催にも取り組んだ。例えば、6月10日には京都府京都市のファブ施設「FabCafe Kyoto / MTRL KYOTO」にてイベント「IAMASフォーラム京都編:なぜ学際的研究は求められるのだろうか?」を開催した。同イベントにはワークショップとトークの合計でのべ50名以上が参加し、IAMASが取り組んできた学際的研究をテーマに活発な議論が展開された。

[IAMASフォーラム京都編:なぜ学際的研究は求められるのだろうか?:レポート](#)

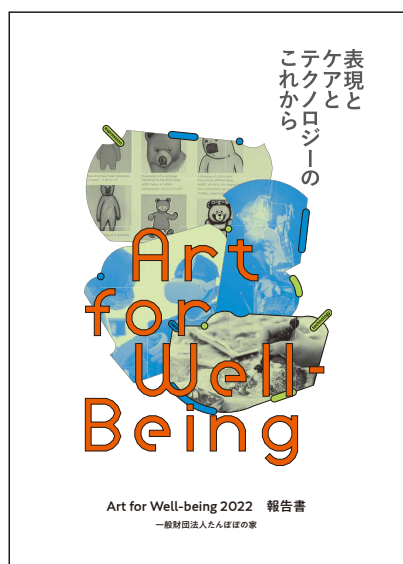


イベントの様子

学外の活動

Art for Well-being

「Art for Well-being」は、アートとケアの観点からテクノロジーをとらえなおし、アートとケアとテクノロジーの可能性をひろげることを目的としたプロジェクトで、奈良県奈良市の一般財団法人たんぽぽの家が主宰。病気や事故、加齢、障害の重度化など、心身がどのような状態に変化しても、テクノロジーとともに、表現活動を継続できるようにすることをめざしている。準備段階から参加し、2022年4月から「全体監修」を担当、ケアの現場を理解しつつ先端的なテクノロジーの可能性を探求するエンジニアなどをコーディネートする、複雑に絡み合った状況で進行するサブプロジェクトおよびプロジェクト全体の進行について事務局にアドバイスする、といった役割を担当している。この取り組みの成果は、2023年度人工知能学会全国大会などにおいて発表した。



Art for Well-being 2022 報告書

慶應義塾大学 非常勤講師

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科において、「サービスデザイン特論」を担当し、イノベーションマネジメントについて知見を提供した。

株式会社マクアケ 外部有識者会議 有識者メンバー

同社の運営する応援購入サービスに関して、同社の定める「Makuake基本方針」を基にした具体的な施策の検討の他、取り扱う様々なジャンルに特化した専門的な課題等の議論に参加している。